

(・ 小論文 ・ 総合問題 ・ 日本語作文) 出題意図

文学部 人文学科

○ 試験の種別

- ・ 総合型選抜 (ディスカバリー入試)
- ・ 総合型選抜 (大学入学共通テストを課すもの)
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰ (大学入学共通テストを課さない)
- ・ 学校推薦型選抜Ⅱ (大学入学共通テストを課すもの)
- ・ 社会人選抜

○ 私費外国人留学生選抜

SDGsにおける17の目標	4 質の高い教育をみんなに
解答案 (出題意図) 問い一 日本語の「オレンジ」と英語のorange、日本語の「茶色」と英語のbrownが指している現実の世界に存在する色の範囲が異なっているから。例の場合、日本語の「茶色」で表される色が、英語ではorangeという語が指す色の範囲であるために、両言語でずれが生じることになる。(138字) 問い二 英語話者も日本語話者も、知覚として「アオ」と「ミズイロ」の違いを認識することができる。これが「イエス」の方の答えである。しかしながら、日本語には「ミズイロ」という語があり、そのことで2つの色が別の色であるということが、その語を繰り返し使用することで強化され、「ミズイロ」に対応する語が存在しない英語話者よりも、2つの色の違いをはっきりと認識できるようになる。これが「ノー」の方の答えである。(195字) 問い三 本文では、ある語で指される現実世界の意味の範囲が、ことばの間で異なっていることが、色の問題を例に論じられています。これに類することは様々な語で起こります。その差が微妙であればあるほど、我々には気づきにくく、そのせいでコミュニケーションに支障が出る場合もあるでしょう。そのような例を思いつく発想力、それを説得的に論じることができる力を問うています。	